

# 年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問  
PT / OT / ST  
コアカリ( 排泄支援 )

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

## 《年間目標》

1. 3名(5名)ずつの症例データをとる
2. 他社と連携して排泄についての知識をより深める

## ●構造 structure

### 【人的物資】

入所担当作業療法士 1名、通所担当作業療法士 1名、通所担当理学療法士2名  
その他に協力していただいたのは、排泄支援委員会で関わってくださっているユニ・チャーム様と今年はり  
リハビリテーション部にも関わってくださりました。  
また当施設入所されている、されていた利用者4名と評価にあたった介護士のスタッフの方

### 【物的資源】

排泄体操DVD、パソコン、ハンドヘルド、プラットホーム、フロアのスペース

### 【組織的資源】

評価バッテリーを決める際の文献抄読実施済み、外部の研修受講したセラピスト1名

## ●過程 process

### 【前期】

- 4月体操のビデオ撮影
- 5月ユニ・チャームさんと顔合わせ・年間スケジュールの作成・勉強会内容の検討
- 6月勉強会の打合せ・勉強会実施
- 7月研究方法について学ぶ・研究方法の選定→コロナ禍で実施不可
- 9月 体操の実施方法(環境・時間・頻度)の設定・評価バッテリーの検討(全老健の発表)
- 10月対象者選定

### 【後期】

- 11月初期評価体操の実施
- 12月再評価実施
- 1月未実施
- 2月通所リハビリでの対象者選定
- 3月通所スタッフへの共有・通所リハビリでの体操デモ実施

## ●結果 outcome

### 【結果】

- 専門的な排泄ケアの知識を他社と共同して勉強会と言う形で共有することができた。
- 体操への導入には指導する人員が必要であることが分かった。
- 全老健の発表では他施設の方から声をかけてもらうことができた。
- 入所利用者4名に対して、評価や体操を実際に行いデータを収集することが出来た。
- デモンストレーションの段階ではあるが、片麻痺の利用者が自らで体操への参加を認めた。

## 《次年度持ち越し課題》

- データの分析をできるようになること
- 通所でのデータ収集 ○データによる体操の内容の検討